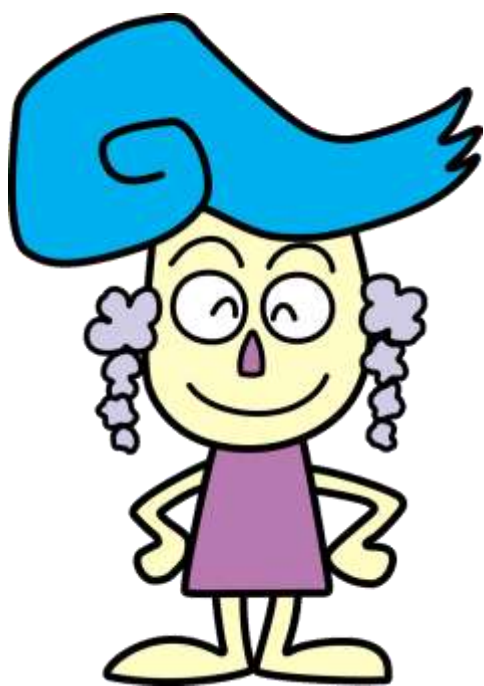


令和5年度

江南市地域福祉推進シンポジウム 資料



日時	令和5年10月8日(日) 14:00~16:15(受付 13:30~)
場所	Home&nico ホール 小ホール(江南市民文化会館)
主催	江南市役所福祉課・江南市社会福祉協議会

目次

1. プログラム	1
2. 第1部基調講演 資料	2
みんなで考え、みんなで作る地域の支え合いのしくみ	
ー江南市生活支援体制整備事業の取り組みー	
3. 資料集	
・教えて、あなたの原動力（コミュニティサロン☆むらっこ）	9
・宮中いきいきショッピング（宮後中区買物支援事業協議会）	10
・安良町の地域コミュニティ活動の姿（安良区連絡協議会）	11
・ちいきの見守り冊子 WEB 版	12
・みんなで考え、みんなで作る 地域の支え合いのしくみ	17
～生活支援体制整備事業～（生活支援コーディネーターチラシ）	
・令和5年度地域福祉推進シンポジウムチラシ	19

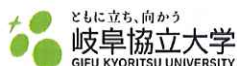
プログラム

時 間	内 容
14:00～ 14:10	開会
14:10～ 14:50	第1部 基調講演 「みんなで考え、みんなで作る地域の支え合いのしくみ」 ー江南市生活支援体制整備事業の取り組みー 講師 後藤 康文 氏 岐阜協立大学 准教授 江南市生活支援体制整備事業アドバイザー
14:50～ 15:00	休憩
15:00～ 16:15	第2部 トークセッション 「市内の取り組みから考える、地域が主体の支え合い活動」 助言者 後藤 康文 氏 発表者 コミュニティサロン☆むらっこのみなさん 宮後中区買物支援事業協議会のみなさん 安良区連絡協議会のみなさん 進 行 伊藤 光洋（社会福祉協議会職員）
16:15	終了

みんなで考え、みんなでつくる地域の支え合いのしくみ — 江南市生活支援体制整備事業の取り組み —

もくじ

- I. 生活支援体制整備事業の概要
- II. 住民が地域(福祉)活動に関わるきっかけ
- III. 住民と社会のかかわり
- IV. 地域生活課題というもの
- V. 地域(福祉)活動の進め方



後藤康文

江南市地域福祉推進シンポジウム20231008

1

I. 生活支援体制整備事業の概要

1. 生活支援体制整備事業の法的根拠

・ 介護保険法第115条の4第2項第5号(赤字は後藤)

2 市町村は、介護予防・日常生活支援総合事業のほか、被保険者が要介護状態等となることを予防するとともに、要介護状態等となった場合においても、**可能な限り、地域において自立した日常生活を営むことができる**よう支援するため、地域支援事業として、次に掲げる事業を行うものとする。

(1)～(4) (略)

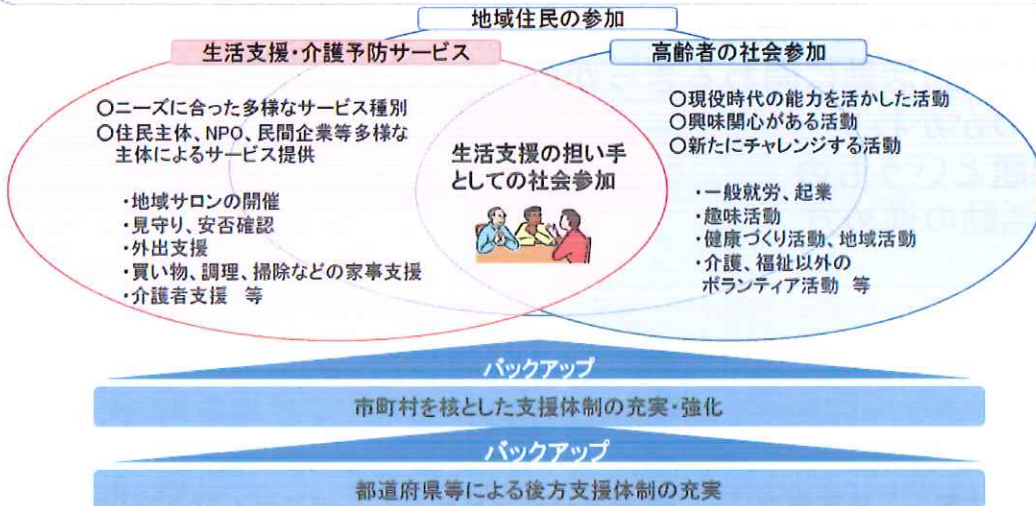
(5) 被保険者の地域における自立した**日常生活の支援**及び要介護状態となることの予防又は要介護状態等の軽減若しくは悪化の防止に係る体制の整備その他のこれらを促進する事業

(6) (略)

I. 生活支援体制整備事業の概要

生活支援・介護予防サービスの充実と高齢者の社会参加

- 単身世帯等が増加し、支援を必要とする軽度の高齢者が増加する中、生活支援の必要性が増加。ボランティア、NPO、民間企業、協同組合等の多様な主体が生活支援・介護予防サービスを提供することが必要。
- 高齢者の介護予防が求められているが、社会参加・社会的役割を持つことが生きがいや介護予防につながる。
- 多様な生活支援・介護予防サービスが利用できるような地域づくりを市町村が支援することについて、制度的な位置づけの強化を図る。具体的には、生活支援・介護予防サービスの充実に向けて、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘等の地域資源の開発やそのネットワーク化などを行う「生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)」の配置などについて、介護保険法の地域支援事業に位置づける。



9

3

II. 江南市民の地域(福祉)活動状況

1. 参加状況

出所：『江南市地域福祉に関するアンケート調査報告書』（令和5、市民調査）から

- ・ 現在、なんらかの地域活動をしているのは15.6%(p.41)。
- ・ その中で、もっとも多い活動が「自治会の活動(45.3%)」。「PTAや子ども会の活動(28.5%)」「ボランティア活動(21.2%)」と続く(p.43)。
- ・ 「自治会の活動」は50歳代以上が高く、「PTAや子ども会の活動」は30歳代・40歳代が高い。「ボランティア活動」は30歳代・50歳代・60歳代・70歳代以上が占めている(40歳代はいない)(p.44)。
- ・ 男女別にみると「自治会活動」は男性59.1%・女性32.4%(男性>女性、26.7ポイント差)、「PTAや子ども会の活動」は男性13.6%・女性44.1%(男性<女性、30.5ポイント差)、「ボランティア活動」では男性30.3%・女性13.2%(男性>女性、17.1ポイント差)(p.44)。

【雑感】

- 調査では市民の1割強がなんらかの地域活動に関わっている。
- その中で「自治会」がもっとも多い → 自治会役員は毎年交代するのでは？
- 「PTAや子ども会の活動」は子育て世代の女性が多い → 子育てがひと段落すると活動しない？
- 「ボランティア活動」はほぼ世代を超えて参加 → 世代による違いは大きくない

4

II. 江南市民の地域(福祉)活動状況

2. 現在活動していない理由

出所：『江南市地域福祉に関するアンケート調査報告書』（令和5、市民調査）から

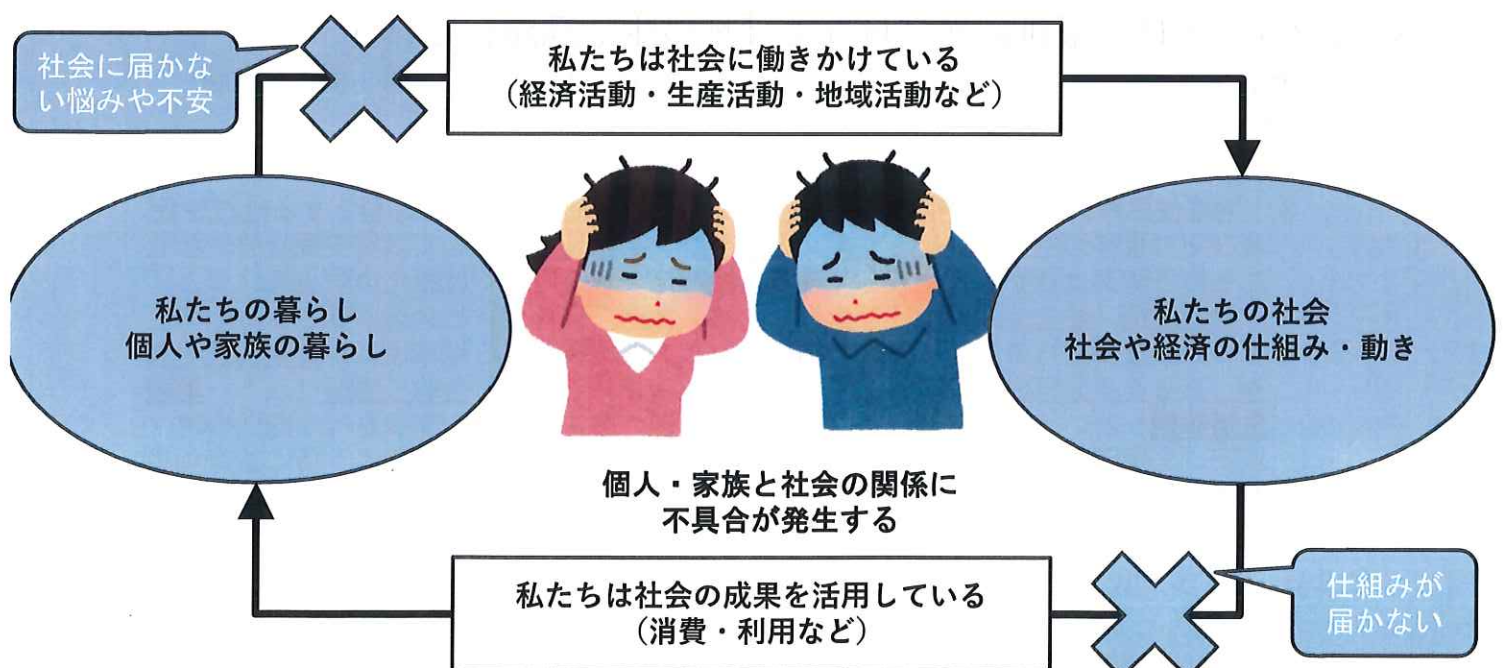
- 「仕事が忙しい(26.8%)」「子どもが大きくなり子どもに関する活動（子ども会、PTAなど）がなくなった(26.3%)」「体力的に参加するのがむづかしい(21.2%)」と続く(p.45)。
- 「仕事が忙しい」のは20歳代・30歳代・40歳代に多い。「子どもが大きくなり子どもに関する活動（子ども会、PTAなど）がなくなった」のは50歳代・40歳代に多い。「体力的に参加するのがむづかしい」のは70歳代に多い(p.46)。
- 「仕事が忙しい」のは男性31.8%・女性22.7%(男性>女性、9.1ポイント差)、「子どもが大きくなり子どもに関する活動(子ども会、PTAなど)がなくなった」のは男性13.0%・女性37.0%(男性<女性、24.0ポイント差)、「体力的に参加するのがむづかしい」のは男性20.1%・女性22.2%(男性≒女性)(p.46)。

【雑感】

- 前スライドではボランティア活動に「ほぼ世代を超えて参加」している。
- 活動参加を呼び掛けるのは50～60歳代がターゲット？

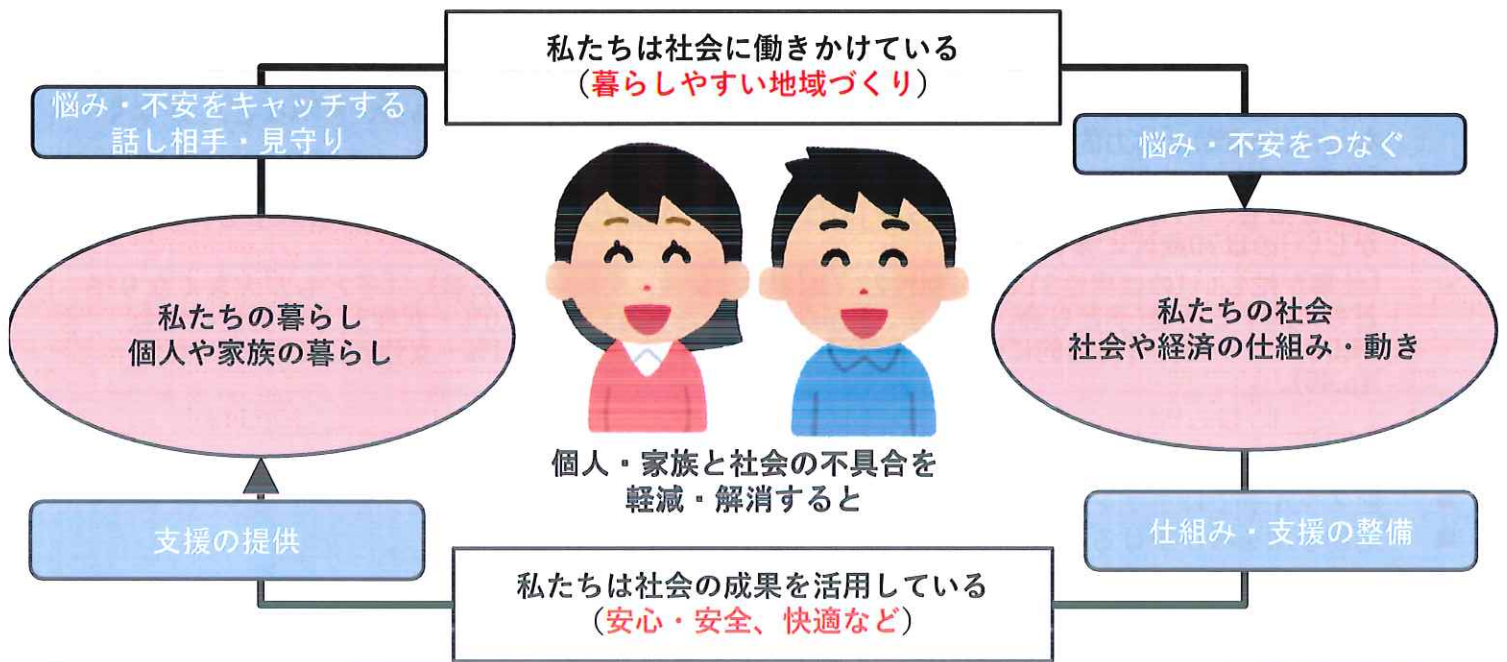
5

3. 住民と社会のかかわり



6

3. 住民と社会のかかわり



7

3. 地域生活課題というもの

- 社会福祉法では、福祉課題ではなく「地域生活課題」という

…社会福祉法（昭和26年法律第45号、令和4年法律第52号による改正。下線・赤字は後藤）
（地域福祉の推進）

第四条

- 3 地域住民等は、地域福祉の推進に当たっては、福祉サービスを必要とする地域住民及びその世帯が抱える福祉、介護、介護予防（要介護状態若しくは要支援状態となることの予防又は要介護状態若しくは要支援状態の軽減若しくは悪化の防止をいう。）、保健医療、住まい、就労及び教育に関する課題、福祉サービスを必要とする地域住民の地域社会からの孤立その他の福祉サービスを必要とする地域住民が日常生活を営み、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される上での各般の課題（以下「**地域生活課題**」という。）を把握し、地域生活課題の解決に資する支援を行う関係機関（以下「支援関係機関」という。）との連携等によりその解決を図るよう特に留意するものとする。

8

3. 地域生活課題というもの

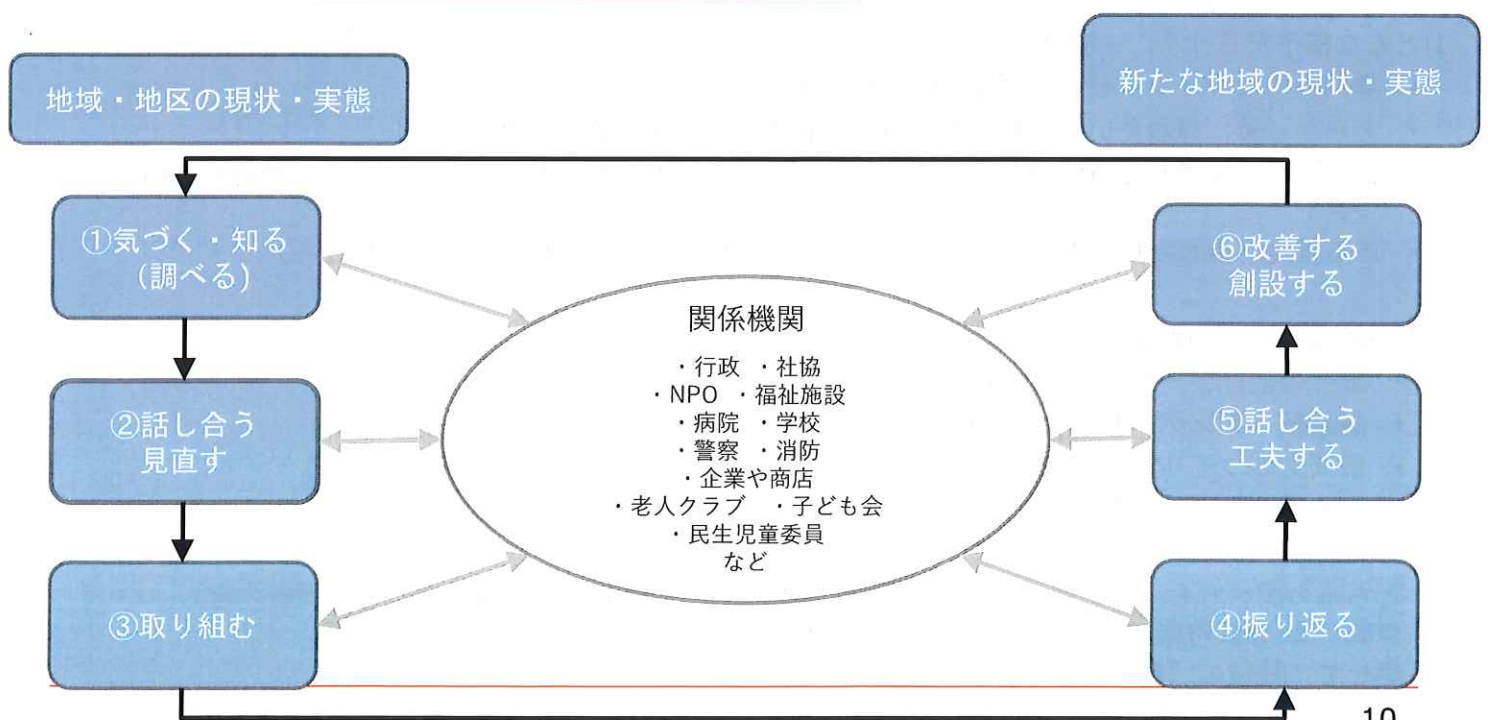
地域生活課題は「暮らし」の場面で発生する

- 住む・暮らす
…水・電気・ガス・通信・衣類・寝具など暮らしの基盤
移動・交通手段の不自由（通院や買い物）
- 費やす
…家計の悪化、衣食生活費の不足、教育費の捻出が困難、債務の負担など
- 働く
…仕事（家業も）の喪失、求職・再就労の難しさ、新たな仕事への順応など
- 育てる・学ぶ
…育児や保育の困難、学齢児の教育保障、子どもの貧困、ヤングケアラー、ダブルケアなど
- 参加・交わる
…介護者（育児も）の孤立、ひきこもり・とじこもり（の長期化）、8050問題
- 身体と心の健康
…加齢による心身機能の低下、持病、感染症、PTSDやノイローゼ、自殺企図など
- その他
…ジェンダーやLGBTQ・障害者やホームレス・外国ルーツの人々への、偏見・差別、対立・摩擦

これらが地域生活課題として「複合的」に表出する

9

4. 地域(福祉)活動の進め方(後藤試案図)



① 気づく・知る(調べる) 一日ごろの暮らしの中で「あれっ?」に気づくことー

あなたは「Aさん」です

- ご近所のあの家、郵便受けに新聞が溜まっている
- あの家、雨が降ってきたのに洗濯物が取り込まれていない
- いつも行く喫茶店、同じ常連のあの人、昨日もその前もいなかったな?
- 近所のお葬式、あの家って高齢夫婦だったよね
- 町内の催しごと、毎回顔を出していたあの人、今日は?
- いつものお散歩道、そういえば最近見かけないな、などなど

「わざわざ」声をかけたり、様子を見に行ったりするのは…
私だけが気にかけても…。

そんな「気がかり」(地域の心配な情報)を共有してみませんか?

11

1) どんな様子だろう? ー聞いて調べるー

- 専門的には「インタビュー(聞き取り)調査」という
- あらかじめ、尋ねたいことを全部決めて尋ねる方法(構造的インタビュー)
- 何も決めずに尋ねる方法(非構造的インタビュー。ほとんどフリートーク=日ごろの暮らしの気づき)
- ある程度、尋ねたいことを決め、フリートークも併用する(半構造的インタビュー)

2) どれくらいいるのかな? ー数で調べるー

- 既存の統計データを活用する
- 調査紙(アンケート)を配り回収して集計・分析する
- 質問文のつくり方、回答方法の工夫、集計や分析の方法など、事前の準備が大切
- 数の落とし穴に気を付ける

どちらの調べ方も、何を調べる(調査目的)、誰に尋ねる(調査対象)、何を尋ねる(調査内容)、いつ調べる(調査時期)など、調査設計をキッチリと。

併せて、地域の「良いところ」調べも。

12

②話し合う・見直す

1)話し合う

- 現状・問題の共有
 - 気づいたことを話し合う
 - 調べた地域の様子を話し合う
- 認識の理解、認識の共有
 - どのように思うか、感じるか、意見を出し合う
- 取り組み方針の決定
 - 個人の問題（他人ごと）なのか、誰にでもにおることなのか（我が事）

2)見直す

- 「今」何かに取り組んでいるか
- 「今」の取り組みの成果・効果は何か
- 「今」の取り組みをどう見直すか
- 新たに取り組むことは何か

13

③取り組む

- やり方はどうすればよいか（方法の検討）
- いつ取り組むか（時期の検討）
- どこで取り組むか（場所の検討）
- いくらで取り組むか（経費・財源の検討）
- 誰がやるか（実行者の検討：メンバーの選定、既存の役職・役割の見直し）
- 誰とやるか（協力者・協力機関探し）



④振り返る

⑤話し合う・工夫する

⑥改善する・創設する

14

新企画

教えて、あなたの原動力!



市内で行われている居場所活動やボランティア活動、福祉教育の現場では、多くの方々が活躍されています。今回は、地域のつながりづくりを目的にした「サロン」を行っているスタッフさんの原動力を紹介します。

令和5年2月に立ち上がった「コミュニティサロン☆むらっこ」は、わずか約3カ月の準備期間で始まりました。パワフルに活動を進めている代表の松本さんに、活動への原動力についてインタビューしました。

そもそも「コミュニティサロン☆むらっこ」って?

令和5年2月から、村久野公民館で活動が始まり、福祉や健康のプログラムの協力のもと、講座や体操などを行っています。

参加者やサロンスタッフの特技を活かし、当日の企画を作ったり、サロンで使うものを手作りしたりしています。



▲座りながらできるヨガ

会場では手作りの看板がお出迎え▶



◀花まつり企画で、スタッフ手作りの誕生仏が登場!



▲高齢の世代から若い世代に花まつりについて教える場面も

年齢関係なく参加者の募集をしており、世代を越えた交流のきっかけにもなっています。

日時：原則、第1水曜日
10時～11時30分
場所：村久野会館

代表の松本さんにインタビュー! あなたの原動力は?

自分自身も地元で暮らし続けたい

50年以上村久野区に住みながら、介護福祉の仕事をする中で「これからは地域の中で元気に過ごせるようにしていきたい。」「周りの人も自分自身も、年を重ねても、地元で元気に暮らせるようにしたい」と思い、サロンを立ち上げました。仕事のつながりを活かし、保健師や理学療法士などに声をかけました。



▲保健師による健康クイズ

参加者に嬉しい変化が

サロンでは仕事の経験を活かして体操を教えています。以前参加者から「教えてもらった体操を家でも続けたい、腕が上がるようになったの。」と笑顔で話してくれたことが嬉しかったです。



▲松本さんのレクチャーのもと体操



サロン代表
松本さん

取材した職員まとめ

松本さんの「自分のためにも、地域を良くしたい」という原動力から、約3カ月の短い期間で活動が始まったのではないかと思います。江南市社協では、今後も地域で活動を始めたい方の相談、活動のサポートをしていきます。



毎月2回 第2・第4金曜日 宮後中区買物支援協議会 (宮中いきいきショッピング)

1 便 宮後町清水・宮後町向工地区
2 便 宮後町中町・宮後町八幡地区
3 便 宮後町王塚・宮後町天神地区
利用者の自宅からアピタ江南西店まで
送迎します。(買物時間は約 100 分)
(運行は、基本午前中に行います)

宮中いきいきショッピング

この事業は、住み慣れた地域で安心して暮らせること、誰かに支えられ、誰かの役に立ちながら暮らせること、そんな地域の「幸せづくり」に寄与するとともに、今後ますます深刻化する「高齢者問題」の対策として「買物支援事業」を実施します。併せて高齢者の孤立や引きこもりを防止すると共に地域の見守り支援や気軽に集える場づくりを提供する一助になることを目的とします。

この事業は、江南市社会福祉協議会の全面的協力により実施するものです。

① 利用できる方

- * 自らの判断で買い物等を行うことができる方。
- * 車等の交通手段が無い方
- * おおむね 70 歳以上の高齢者のみの世帯で、公的制度を利用していない方
- * あらかじめ会員登録が必要です。

② 利用料 無料

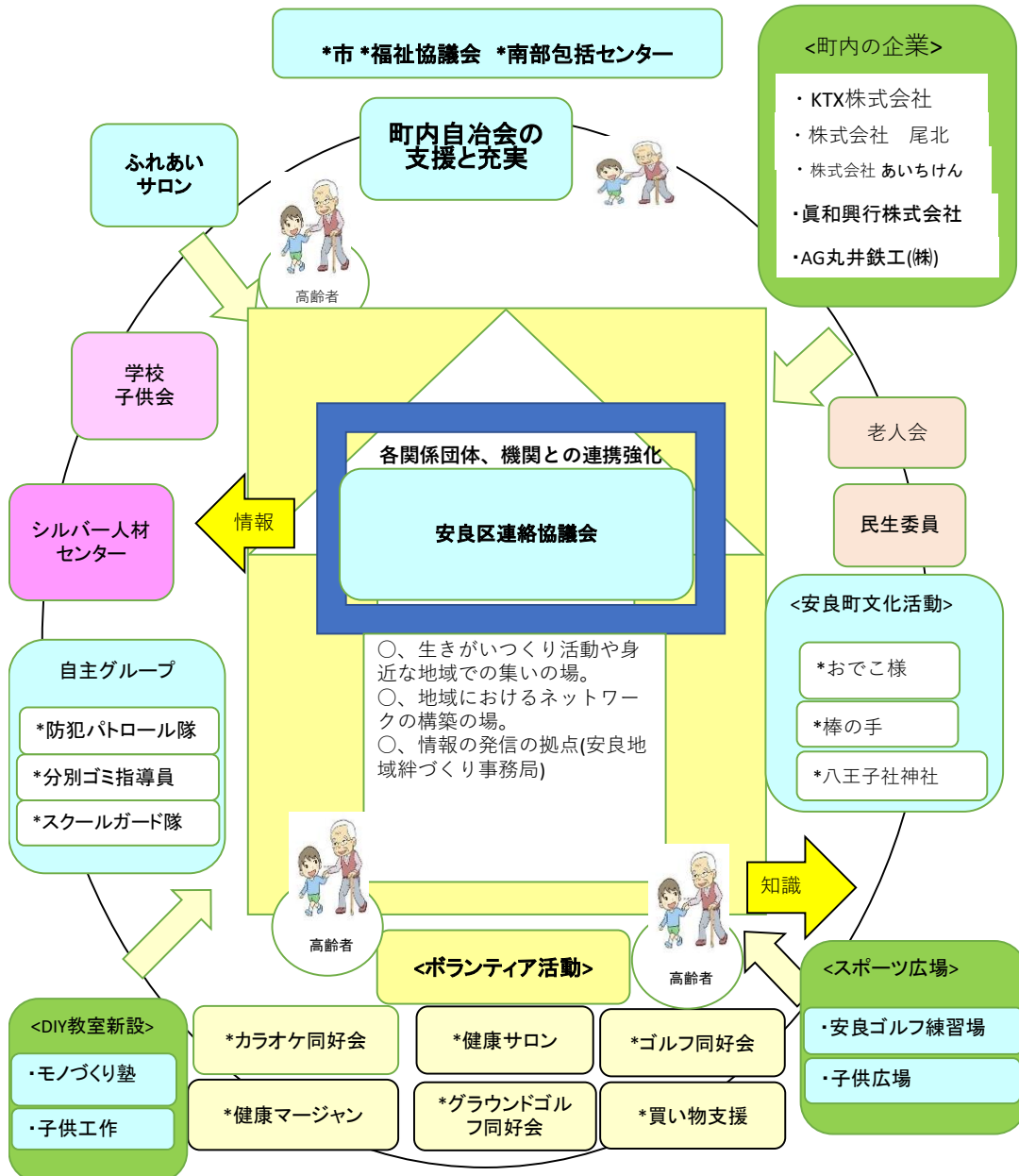
③ 利用方法：利用前日迄に代表者まで連絡下さい。

宮後中区買物支援協議会

安良町の地域コミュニティ活動の姿(案)

高齢者が住み慣れた地域で、色々な仲間と集える場があり、趣味や就労に取り組める事で、いつまでも元気に生きがいをもって暮らす事ができます。(居場所づくり)

《 高齢者の生きがい・集う場所づくりの10年後のイメージ 》



<今後の課題と実績>

- *、安良町の自治会活動が中心と成り、従来の活動と合わせ、地域のネットワークや情報発信の機能を有し、生きがいつくりの場を拠点とし、「**安良地域絆づくりの事務局**」を設立する。
(町内のそれぞれの役員、ボランティア活動の皆様にご支援を頂き2022年度よりスタートした)
- *、地区内の企業とご支援を頂き「ふれあい交流会」を令和4年度より年間5回開催を実施。
- *、スポーツ広場の活用と維持管理の組織の充実が必要。
- *、「DIY教室」の新設と活用・維持管理等の確立。

ちいきの見守り冊子

WEB
版



見守りにつながる地域の取り組み

KONAN
SHAKYO



見守りにつながるって？

connection

近年、少子高齢化の進行や経済状況の変化を受け、福祉課題の「複雑化・多様化」が進み、社会的孤立や孤独死等の社会的な問題が生まれています。

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、平時から地域の人々と関わりを持ち、お互いにつながり、支え合うことが求められています。

そのような中、市内各地で地域のつながりを意識した取り組みが行われています。

本冊子は、地域の活動の「つながり」や「見守りの機能」に着目し紹介することで、地域での住民同士の活動に一人でも多くの方に関心を持ってもらうことを目的に作成します。

住民で協力して農業！？ 安良ふれあい農園から生まれるつながり

content

安良区では、住民やふくしの専門職などで構成される安良区連絡協議会があり、「5年後も、10年後も住みやすい安良を目指して」をテーマに地域の困りごと等に対して取り組んでいます。

農業からはじまるつながり

安良区協議会にて「近くの畑を使って畑をやりたい人と一緒に農作業体験はできないか」、「野菜や果物の収穫祭で住民が集まる機会にならないか」などの声をきっかけに、近くの畑（200坪）を活用して地域の方が集える「安良ふれあい農園」を住民と準備。

野菜は参加者の話し合いで子どもが好きな野菜や果物として、トウモロコシ、すいか、さつまいもを選択し、畝づくりや植え付け、収穫祭と農作業の工程自体をイベントに置き換え、地域でのつながりづくりに向けて取り組みました。



▲安良区連絡協議会内で「頑張ろうポーズ」



▲さつまいもの苗植え、みんなで実施！

子どもから高齢者、畑を通じて関わる

畝づくりでは鍬の使い方を90代のスタッフが子どもに教えたり、野菜の収穫方法を農家から学んだり、これまで関わりのなかった世代が、ふれあい農園という、共通の活動をするにより、会話や関わりが生まれていました。



▲活動日に続々と見える参加者



活動の過程で生まれるつながり！？

安良ふれあい農園を進めるにあたり、①畑の管理、②チラシ作成、③地域回覧や参加者や協力者への呼びかけなどを進める中、スタッフから、「安良区の地域のつながりをつくるためにイベントや収穫祭をしてきた。それぞれの当日も大切だけど、それに至るまでの過程の人との関わりや時間こそが地域のつながりが生まれるときだと感じたな」との声がありました。

社協職員が発見！

見守り機能の キラッとポイント

スタッフの振り返りの声から。

「あいさつが増えたまちになった」

安良ふれあい農園で畑作業をしていると「今日も暑いね。収穫はいつ？」、「次は何を植えるの？楽しみにしているね」、「最近、〇〇さん元気？」などの会話が生まれていました。

地域のつながりづくりを目的にはじめた活動が、その生まれたつながりによって、住民同士、顔が見える関係性となり、見守りの機能にもつながっています。



宮後中

miyaushironaka

買い物支援だけじゃない！？ 買い物から生まれるつながり

content

宮後中区では、区民の方を対象に区民の方が運転、付き添いをする福祉車両で、市内の大型スーパーに送迎する「宮中いきいきショッピング」を行っています。

買い物から生まれるつながり

宮後中区は近くにスーパーがなく、買い物に困りやすい地域という認識が住民の中に広く根付いていました。そんな中、地域包括支援センター主催の「地域ケア推進会議」にて、宮後中区の住民同士が話し合いを行ったことをきっかけに、「宮後中区は、買い物に困っている人が多いからなんとかせねば」との思いがそれぞれに広がり、「宮中買物支援事業協議会」が立ち上がりました。

話し合いを重ね、高齢者の引きこもり防止、孤立予防を目的に、毎月2回、社協の移送車両を活用し、市内の大型スーパーまで送迎する買い物支援「宮中いきいきショッピング」を行っています。



▲自分達で何ができるか、どのまでやるか話し合い



▲自宅の玄関から帰りも玄関まで送迎

買い物に行くことで生活にハリが

「宮中いきいきショッピング」の参加者から少し恥ずかしそうにこんな話がありました。

「実は、2日前くらいから買い物リストを作って、前日には、その日着る洋服を決めているのよ。買い物もそうだけど、みんなに会えるのが楽しみではない」と。



▲フードコートでおしゃべりする参加者



買い物後にフードコートで盛り上がる

スーパー内での送迎の集合場所は、フードコート。買い物が終わった参加者が徐々に集まってきます。ある時は、「その服いい色ね」と褒め合ったり、「息子に買ったもの半分くらい渡しちゃうの」と笑顔で話したり、またある時は、「匂いにつられて買っちゃったの」と焼き芋をみんなで分けて食べることも。

買い物だけではなく、参加者同士が会話する時間が生まれ、地域のつながりが生まれています。

社協職員が発見！

見守り機能の
キラッとポイント

スタッフの声から。

「横のつながりができた」



これまで仕事一筋で地域との関わりがあまりなかったスタッフのNさん。活動をお手伝いするようになって、参加者とのおしゃべりの中で、近所の人を知り、気になり始めることがあるそう。

ちょっとお手伝いをと始めた活動により、生まれたつながりによって、地域の情報・接点が増え、見守りの機能にもつながっています。



みんなで考え、みんなでつくる



地域の支え合いのしくみ



～生活支援体制整備事業～



住みなれた地域で自分らしく暮らし続けるためには、住まい、医療、介護、介護予防、生活支援が一体的に提供される暮らしをつくる必要があります。

地域の見守りや居場所づくり、買い物支援など、地域の支え合いをみんなで考え、みんなでつくることが求められています。



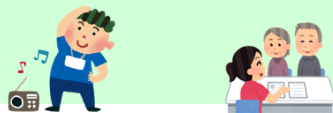
そのような地域の支え合いのしくみを



生活支援コーディネーターが

お手伝いします

地域で活動する住民や様々な分野の専門職など、地域につなげるお手伝いをします！



歩いて通える居場所や地域で話し合いの機会をつくるお手伝いをします！



各地域での支え合いの取り組み紹介など、情報を伝えるお手伝いをします！



情報

支援

生活支援の情報を収集・発信して利用できる支援をつなぐお手伝いをします！



生活支援コーディネーター
江南市社会福祉協議会に4名配置

まずはお気軽にご連絡ください！



社会福祉法人 江南市社会福祉協議会

江南市古知野町宮裏121番地（老人福祉センター内）

電話・FAX：0587-55-5262 メール：info@konan-shakyo.or.jp

担当：生活支援コーディネーター 伊藤（市全域担当）、

勝川（北部圏域担当）、小森（中部圏域担当）、鈴木（南部圏域担当）

ホームページのQR
詳しい情報はこちら



生活支援コーディネーター



の主な取り組み紹介



地域の社会資源や困りごとの把握、情報提供

地域の社会資源や困りごとを把握し、適切に必要としている方へ、広報紙、報告書、ホームページなどを活用し、情報提供ができるように支援します。



民生委員定例会に参加
地域の情報把握、活動周知

様々な場を活用して、集える居場所づくり

公民館や公会堂、商業施設、お寺などを活用し、茶話会や健康体操などを通じ、参加者の仲間づくりを行う「居場所づくり」を支援します。



お寺を活用
健康づくりを学べる場



地区の公会堂を活用
歌を通じた交流の場



商業施設を活用
みんなで健康づくり



喫茶店を活用
コーヒーを囲み茶話会の場

住民同士の支え合い活動支援 (見守りや買い物支援など)

見守りや買い物支援など、住民や関係機関と協力し、地域の課題を解決する支え合い活動（生活支援）が行えるように活動を支援します。



地域住民による支え合い活動
社協の移送車両を活用した買い物支援

生活支援コーディネーターは、社会資源や地域の困りごとを把握し、地域に応じた支え合いを住民や関係機関などと協力してつくる取り組みを進めています

まずはお気軽にご連絡ください！



社会福祉法人 江南市社会福祉協議会

江南市古知野町宮裏121番地（老人福祉センター内）

電話・FAX：0587-55-5262 メール：info@konan-shakyo.or.jp

担当：生活支援コーディネーター 伊藤（市全域担当）、

勝川（北部圏域担当）、小森（中部圏域担当）、鈴木（南部圏域担当）

ホームページのQR
詳しい情報はこちら



申込不要・入場無料・ライブ配信あり

令和5年度 江南市地域福祉 推進シンポジウム



手話通訳
要約筆記あり
(会場のみ)

10.8 日

14:00~16:15

Home&nico
ホール 小ホール
(江南市民文化会館)

第1部 基調講演

14:10~14:50

みんなで考え、みんなで作る 地域の支え合いのしくみ

~江南市生活支援体制整備事業の取り組み~

講師 後藤 康文 氏 (岐阜協立大学准教授 江南市生活支援体制整備事業アドバイザー)

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、どのようなことが大切なのかを講演いただきます。

第2部 トークセッション

15:00~16:15

市内の取り組みから考える、地域が主体の 支え合い活動

助言者 後藤 康文 氏
進行 江南市社会福祉協議会 職員

登壇者

市内で取り組まれている地域が主体の支え合い活動について、各団体に登壇していただき、実践事例や活動への思いなどを語っていただきます。



コミュニティサロン☆むらっこ
のみなさん



宮後中区買物支援事業協議会
のみなさん



安良区連絡協議会
のみなさん

主催
問合せ先

江南市役所 福祉課 ☎ 0587-54-1111 (内線248)
江南市社会福祉協議会 ☎ 0587-55-5262

当日はオンライン配信も行います(見逃し配信も予定)
江南市社会福祉協議会ホームページから視聴できます(2次元コードから)▶

